大阪府指定文化財　関西大学簡文館（関西大学旧図書館）について

神谷悠実

はじめに

大阪府教育委員会では、文化財保護法及び大阪府文化財保護条例に基づき、文化財を指定し、重要な文化財の保存や活用に努めている。このたび関西大学簡文館（関西大学旧図書館）は、大阪府を代表する歴史的な建造物として価値を有していることから、平成三十年三月二十三日付けで大阪府指定有形文化財として指定を行った。本稿では本建物の文化財としての価値の所在と、その評価について報告する。

関西大学簡文館は吹田市中心部の千里丘陵地に校地を置く、千里山キャンパスに所在し、キャンパス内において丘陵地の最高所、学内の中央部分に位置する。

簡文館は昭和三年（一九二八）に建築された鉄筋コンクリート造三階建、地下一階、建築面積三四九平方メートルの部分と、昭和三十年（一九五五）に増築された鉄骨鉄筋コンクリート造三階建、建築面積五一五平方メートルの円形部分とで構成されており、ここでは、創建部分を「旧図書館」、増築部分を「円形図書館」と呼ぶ。

旧図書館（昭和三年（一九二八））の建築について

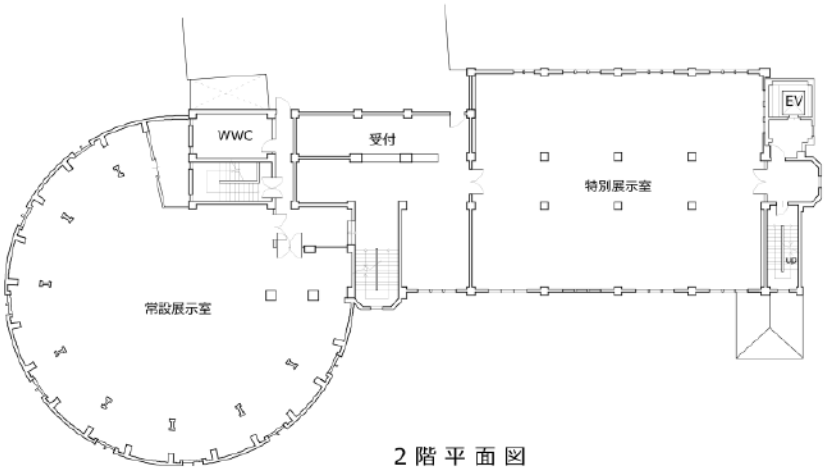
関西大学は、明治十九年（一八八六）関西法律学校として大阪市内に開学した。大正七年（一九一八）に交付された大学令に伴い、北大阪電鉄沿線の千里山に校地を求め、大正十一年（一九二二）年には大学に昇格し、関西大学千里山キャンパスが誕生した。

「旧図書館」は大学昇格五周年を記念して建設された、千里山キャンパス創設時を代表する建物である。清水組の設計施工によるもので昭和二年（一九二七）六月に着工し、昭和三年四月に竣工した。関西大学における初の鉄筋コンクリート造の建物で、地下一階、地上三階建の閲覧室部と地下一階、地上五階建の書庫部が建てられた。現在閲覧室部分が残っている。

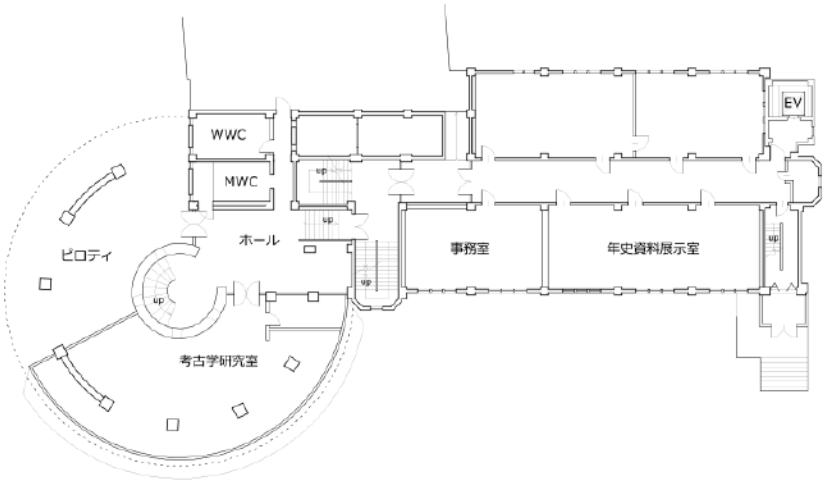
旧図書館の外観は、外壁を白色モルタルとし、尖塔型のピラスターを均等に配列し、その間に縦長窓を並べ、窓と壁の境目はトレーサリーで装飾する。また南側の主階段室は塔屋とするなど、全体的に垂直性を強調したゴシック様式の要素を用いた意匠である。

円形図書館　　旧図書館

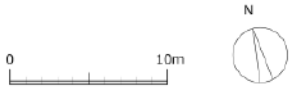
南側立面図



2階平面図



1階平面図



関西大学簡文館（関西大学旧図書館）図面

内部は面取りした梁型を見せ、階段廻りや廊下などの共用空間は人造石の幅木に腰高までを布目タイルとし、その上部から天井までを漆喰仕上げとし、天井廻りにはモールディングを配する。また主要諸室境の建具は、上部壁を半円アーチとし、葡萄柄のオーナメントを配するなどの装飾を加えており、総じて構造体は堅固だが軽やかにみえるよう丁寧に作られている。

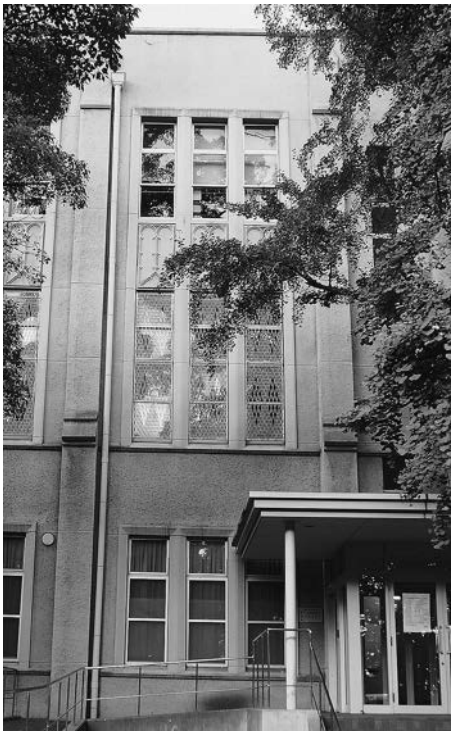
また大阪府内に現存する近代の高等教育機関の施設として旧図書館をみると、本建物は最も古く、希少な鉄筋コンクリート造の図書館施設でもあることが分かった（註一）。

円形図書館（昭和三十年（一九五五））の建築について

第二次世界大戦中、千里山キャンパスの施設は軍隊が使用し、旧図書館も閉鎖され、荒廃した。戦後昭和二十三年（一九四八）から本格的な蔵書点検が行われ、昭和二十五年（一九五〇）には戦前を上回る利用者数を数えるようになり、旧図書館は復興を迎えた。また関西大学は昭和二十三年（一九四八）に新制大学への転換に伴い、学生数がめざましく増加したことで、全学の施設拡充が行われた。大学創立七十周年記念事業の一貫で、復興間もない旧図書館に増築されたのが「円形図書館」である。

円形図書館は旧図書館の玄関部分に接続して増築された鉄骨鉄筋コンクリート造の建物であり、旧図書館の南西隅に円形の三階建の閲覧室が、旧図書館書庫の西側に接続して六階建の書庫が増築された。設計は村野藤吾、施工は竹中工務店が行い、昭和二十九年（一九五四）

創建時の旧図書館（昭和3年頃）（『関西大学百年史通編上』より）



現在の旧図書館（左：外観 右：ピラスターとトレーサリー）

旧図書館2階（現在は博物館展示室として利用）

十二月に起工、昭和三十年（一九五五）十月に竣工した。現在閲覧室部分が残る。

円形図書館の平面形態は旧図書館の矩形に対し円形である。また外観は旧図書館の白色壁面に対し、柱梁型をあらわしたフレームの間を埋めるよう赤褐色の塩焼きタイル貼りとし、要所に緑や青のタイルでモザイクが施されており、表情豊かなテクスチャーを実現している。さらに屋根架構は逆梁とし、構造的にも特徴のある建物である。内部は一階中央部の螺旋階段を核とし、その周辺をピロティとする。中二階は階段の周囲に諸室が並ぶ。最上階である二階は天井を高くし、多数の穴の開いた天窓、矩形窓とその上部をガラスブロックとし、アーモンド型の高窓を配するなど、多様な窓が用いられている。

特に、旧図書館と円形図書館との接続部に着目すると、旧図書館の外壁の一部に円形図書館の外壁材であるモザイクタイルが貼付されており、内部においては旧図書館と円形図書館は階高が異なるため、段差が生じているが、これを接合部の小階段で解消している。加えて、円形図書館から旧図書館へと向かう階段の床と壁には茶褐色のタイルが用いられ、旧図書館の内装との調和が図られている。一方、旧図書館から円形図書館へと向かう階段には白色の床と壁が用いられ、両者を鮮やかに対比させている。このように、新旧相互の建物は明確に区切られながらも、一体化が図られている。

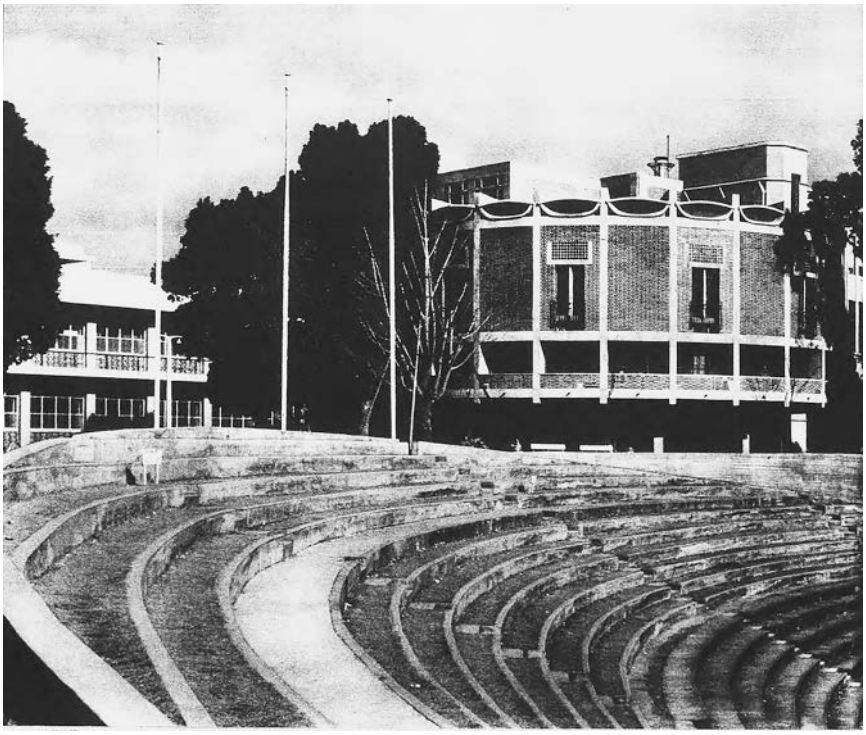
図書館から博物館施設へ

昭和六十年（一九八五）に蔵書数の増加に伴い総合図書館が新築され、それまで「千里山図書館」と呼ばれていた本建物は「簡文館」と名称を変え、考古学資料室として考古学および博物館実習のための施設としてその用途を変更した。平成六年（一九九四）からは収蔵資料を展示する博物館施設として開館し、これまで使い続けるために必要な、増改築や耐震補強などを行い現在に至る。

建築家村野藤吾と関西大学について

円形図書館の設計者である村野藤吾（明治二十四年（一八九一）～昭和五十九年（一九八四））は、戦前から戦後にかけて活躍した日本近代期を代表する建築家の一人である。大正七年（一九一八）早稲田大学建築学科を卒業、渡辺節の主宰する建築事務所に入所し、大阪府内では綿業会館（昭和六年（一九三一）竣工、国指定重要文化財）の設計にドラフトマンとして参画している。その後昭和四年（一九二九）に独立し、昭和四十二年（一九六七）には文化勲章を受章、昭和五十五年（一九八〇）に日本芸術院会員となった。

村野藤吾は主に民間を施主とし、その作品は全国規模で展開されているが、一貫して大阪を拠点として設計活動をした大阪を代表する建築家である。もちろん大阪府内において多くの建築作品を残しているが、中でも大阪市内を南北に縦断する御堂筋の景観を特徴付けていた、そごう大阪本店（昭和八年（一九三三）～十二年（一九三七））と大阪新歌舞伎座（昭和三十三年（一九五八））はどちらも現存していない。現在梅田吸気塔（昭和三十八年（一九六三））が御堂筋の終着点にひっそりと残るが、大阪府内の村野作品の多くがどんどん姿を消している



創建時の円形図書館（昭和25年頃）
（『関西大学百年史通史編 上』より）

現在の円形図書館外観

創建時の円形図書館閲覧室（昭和25年頃）
（『関西大学百年史通史編 上』より）

現在は博物館展示室として利用

旧図書館と円形図書館との接合部分
（階段部分）

旧図書館と円形図書館との接合部分
（外観の塔屋部分）

円形図書館と世界平和記念堂との外観の類似性
（円形図書館）

円形図書館と世界平和記念堂との外観の類似性
（世界平和記念聖堂）

のが現状である。

一方村野藤吾の建築を全国的に見てみると、すでに国の重要文化財として価値が認められており、その数は日本近代の建築家の作品としては最も多い（註二）。中でも世界平和記念聖堂（昭和二十九（一九五四））は、簡文館と同時期の建物であり、柱梁型をあらわしにし、その間をタイル張とするなどの外壁の構成手法に類似性が見られ、両者に村野の造形の特色がよく表れている。

関西大学は昭和二十四年（一九四九）から昭和五十五年（一九八〇）にかけて約四十棟の校舎設計を村野藤吾に依頼している。つまり関西大学は、村野藤吾が数多くの校舎を長期間に渡って請け負った最大の施主であったといえる。現在千里山キャンパスには、簡文館を含めその半数近くの作品が現存する。

関西大学における村野藤吾の建築作品群の特徴は、教室が中心となる建物は単純な矩形とした簡素な建物が多いが、簡文館をはじめとする共用施設は、特色ある形態や意匠を取り入れている。

文化財としての評価

関西大学簡文館は、創建部分の「旧図書館」と増築された「円形図書館」から構成される歴史的な建物として、現在は博物館施設として主要部分は広く一般に公開されている。

「旧図書館」は、躯体は堅固ながらも外観の装飾は控えめで、開口部上部に軽やかな装飾を施すなど、明るい印象を与える建物として今日に至るまで残されてきた。さらに関西大学創学時の様子を知るうえでも貴重なものであり、大阪府内における戦前期の高等教育機関施設としても最も古く重要である。

一方「円形図書館」は第二次世界大戦後、様式的な意匠の旧図書館に、円形平面や多様な形態の窓を用いるなどモダニズムの要素を用い増築されたものである。設計者は大阪を代表する建築家村野藤吾であり、新旧の建物の建築形態や素材など意匠的対比を明瞭にしながらも緩やかに調和させる建築手法をとることで、両者の建築の特徴が引き立てられ、両者は一体の建築作品として高い完成度を示している。また関西大学千里山キャンパスの中で最もよく知られる村野建築であり、大阪府内に現存する村野藤吾の代表作でもある。

以上のように関西大学簡文館は大学のシンボル的存在として大切に使い続けられており、時代に応じて改修や用途の変更があったものの、大阪の近代期における高等教育機関の施設として価値を有しており、総じて大阪府指定文化財としてふさわしいと評価された。

（註一）

すでに大阪府内の近代の教育機関施設は国の登録有形文化財建造物として一定の評価を得ている。関西大学簡文館も平成十九年に国の登録文化財として登録され、このたび大阪府指定文化財になったことで登録が抹消された。昭和三年（一九二八）建築の旧図書館と同時期に建てられた鉄筋コンクリート造の高等教育機関は次のとおりであり、現存する最も古い高等教育施設であることが分かる。

①大阪歯科大学牧野学舎本館

昭和四年（一九二九）建築。中央の塔屋と両翼部を持つ左右対称の建築構成。表現派風造形意匠が特徴的な校舎。

②大阪大学共通教育本館（旧制浪速高等学校校舎）

昭和四年（一九二九）建築。ゴシック様式の校舎として建築。現在博物館施設の他、講堂を講演会等で使用。

③大阪医科大学看護専門学校校舎（旧大阪高等医学専門学校別館）

昭和五年（一九三〇）建築。イスラム様式の特徴的な意匠を持つ校舎。階段講堂を復元し、歴史資料館として使用。

④大阪大学待兼山修学館（旧大阪帝国大学医学部附属病院石橋分院本館）

昭和六年（一九三〇）建築。モダニズムの意匠を用いた病院施設。現在総合学術博物館として学術標本を展示。

⑤大阪市立大学一号館（旧大阪商科大学本館）

昭和九年（一九三四）建築。中央の塔屋と両翼部を持つ、左右対称のインターナショナルスタイルの校舎。

⑥大阪商業大学谷岡記念館（旧城東商業学校校舎）

昭和十年（一九三五）建築。モダニズム意匠の外観をもつ校舎。現在大講堂や商業史博物館として使用。

（註二）

村野藤吾の建築のうち次の作品は、すでに国の重要文化財としてその価値が評価されている。

①宇部市渡辺翁記念会館（昭和十二年（一九三七））

②世界平和記念聖堂（昭和二十九年（一九五四））

③髙島屋東京本店（第Ⅰ・Ⅱ期増築／昭和二十七年（一九五二）～二十九年（一九五四）、第Ⅲ・Ⅳ期増築／昭和三十八年（一九六三）～四十年（一九六五））

（大阪府教育庁　文化財保護課）